

アジア研究教育ユニット 令和5年度教育研究報告書

事業課題名	東アジアジュニアワークショップ
代表者名	Stéphane Heim
事業概要 (600 字程度)	本事業は国際連携大学である国立台湾大学とソウル国立大学の、主に社会学部の学部生を対象とした研究報告ワークショップと、並行して実施するフィールドリサーチから構成される事業である。3 大学においては本ワークショップや遠隔授業を大学の授業として位置づけており、単位も認定している。海外の複数大学との国際合同授業は、日本の大学ではほとんど例のない新しい試みであるが、京都大学では特殊講義として事前準備のための授業も併せて開講している。事前授業では 3 か国の比較研究のサーベイを通じて基礎理解を深め、各自の関心に従ってリサーチをおこなう。さらに、これまでの経験から英語でのプレゼンテーション能力を向上させる必要があるため、発表演習を実施する。 ワークショップでは、同世代の学生を前にして英語で自分の研究成果を発表し、英語で質疑応答を受け、各国の研究者からも英語でコメントを受けるため、報告者は大きな成長を遂げる。国際会議での報告のみならず、3 カ国の学生・教員が共同して実施するフィールドワークでは各国の社会学的視点に基づくリサーチがおこなわれるため、より深い社会への洞察力が涵養される。本年度はシニアスタッフによるワークショップやシンポジウムも計画しており、教育と研究が両輪をなす構成としている。なお本事業は、グローバル COE プログラム「親密圏と公共圏の再編成をめざすアジア拠点」の活動の一環として、2009 年から年に 1 度開催してきたもので、2013 年からその活動を KUASU が引き継いでいる。
成果の概要 (800 字程度)	本事業は、授業とワークショップから構成される。新型コロナウイルス感染症の影響により、当面の間オンラインで実施していたが、本年度より対面開催となり、2023 年 8 月 22 日～8 月 25 日にソウルに学生を派遣した。本年度はソウル国立大学が幹事校となった。京都大学からの参加者は 9 名で大学院生が 8 名、学部学生が 1 名であった。また、京都大学からは教員 1 名が参加した。 これまでもそうであったが、ワークショップの準備と位置付けている特殊講義では 6 回英語で共同授業を開催し 3 か国の比較研究のサーベイを通じて、台湾や韓国社会の基礎理解を深めた。また、ワークショップでの報告に向け、各自が問題を設定し、文献サーベイを実施し、プレゼンテーション能力を向上させるため、発表演習を行った。毎年のことだが、発表演習は報告前日のぎりぎりまで続いた。ワークショップについて、社会学以外からの参加や留学生の参加もあった。京都大学からの報告は、戦後日本における短期大学の男女共学化の歴史、子供食堂の多様性と包摂性、ポスト一人っ子政策下の中国での子育てに対する女性の認識、台湾における同性婚の社会的言説、日本の若者の政治意識の変化など多様な議題が取り上げられた。報告のため、学生は多くの時間を割いて準備をし、他大学の報告のレベルの高さから大いに刺激を受けており、大きな成果があったといえる。また、本ワークショップは、3 社会の協働研究として実施し出版も念頭に置いている。